

第14回 埼玉圏央道オオタカ等保護対策会議

第14回 埼玉圏央道オオタカ等保護対策会議  
議事録

日時：平成25年6月24日（月） 13:00 ～ 14:00

場所：大宮ソニックシティ ソニックシティビル7F 706会議室

出席者	座長	葉山 嘉一	日本大学生物資源科学部 准教授
	委員	池谷 奉文	公益財団法人日本生態系協会 会長
		柳澤 紀夫	公益財団法人日本鳥類保護連盟 理事
		鈴木 伸	鳩山野鳥の会 代表
事業者		本間 淳史	東日本高速道路株式会社 さいたま工事事務所長
		真田 晃宏	国土交通省関東地方整備局 大宮国道事務所長
事務局			大宮国道事務所

第14回 埼玉圏央道オオタカ等保護対策会議

項目	主な意見と回答
開 会	<p>・ [ ] はまだお見えになられていないのですが、定刻になりましたので、ただいまより第14回埼玉圏央道オオタカ等保護対策会議を開催させていただきます。</p> <p>委員の皆様におかれましては、御多忙の中御出席いただきまして、ありがとうございます。</p> <p>また、お忙しい中、先日、6月12日・18日には、事前説明に合わせて現地にお越し頂き、調査地Lの工事の状況、各調査地の営巣林の状況等の確認をして頂き、貴重な御意見をありがとうございました。</p> <p>私は、本日の進行を務めます大宮国道事務所の調査課長の宮下と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>本日の会議は13時～14時30分の約1時間30分を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、議事に入る前に、本日の配付資料の確認をさせていただきます。お手元にごございます議事次第、それからA3になります会議資料①、会議資料②、参考資料①、参考資料②。資料の不足等ございます方はいらっしゃいますでしょうか。(事務局 宮下)</p> <p><b>【会議資料】</b></p> <p>会議資料① 平成25年繁殖期(1月～6月)の調査結果</p> <p>会議資料② 調査地Lの保全対策(調査地Lの施工時の配慮)</p> <p>参考資料① オオタカ飛翔図&lt;調査地F及びL&gt;(平成25年1月～6月)</p> <p>参考資料② CCDカメラモニタリング結果&lt;調査地F及びL&gt;(平成25年1月～6月)</p> <p>・それでは、議事次第に沿って進めさせていただきます。ここからは [ ] に進行をお願いします。それでは、座長よろしくお願いいたします。(事務局 宮下)</p> <p>・こんにちは。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは始めますけれども、先ほどお話がありましたように、 [ ] はいらしていただけるとあればいいのですが、もし御欠席の場合は、きょう御議論した内容を [ ] にお話しして…… [ ]</p>

項目	主な意見と回答
<p>(1) 平成25年繁殖期(1月～6月)の調査結果</p>	<p>・ただいま [ ] から電話がありまして、申し訳ないけれども欠席ということで御連絡がありました。よろしくお願ひします。 (事務局 早野)</p> <p>・決め事があった場合には、会議が終わった後に [ ] にお話をさせていただいて、了解をとって頂いて、最終的に決めるという手順にしたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひいたします。 [ ]</p> <p>・それでは、次第の議事ですが、(1)「平成25年繁殖期(1月～6月)の調査結果」の御説明をよろしくお願ひします。 [ ]</p> <p>・それでは、事務局から会議資料について説明させていただきます。 お手元の会議資料①を説明させていただきます。 最初に、本日の会議の趣旨でございますが、前回第13回会議において、調査地Lで繁殖兆候がなく、調査地Fで顕著な繁殖兆候が確認された場合は、委員の皆様個別に工事实施について御意見を伺ひ、最終的に [ ] に判断して頂き、委員の皆様御報告した上で工事を進めさせていただくことについて了解を頂いております。4月末までに調査地Fにおいて交尾、造巢行動、産卵、抱卵が確認されたため、5月中旬に委員の皆様個別に工事实施について御意見を伺ひ、最終的に [ ] に判断して頂き、5月22日に委員の皆様御報告させて頂いております、6月より工事を実施しているところでございます。</p> <p>本日の第14回会議は、調査地L、調査地Fの6月中旬までの調査結果を報告して頂き、調査地Lの工事实施の判断について、本日の会議において御審議、確認を頂きたいと考えております。よろしくお願ひします。</p> <p>なお、会議資料は事前に委員の皆様説明させて頂いているところでございますので、ポイントを中心に説明させて頂くことを御了承願ひします。(事務局 宮下)</p> <p>・「会議資料①平成25年繁殖期(1月～6月)の調査結果」の説明</p>

第14回 埼玉圏央道オオタカ等保護対策会議

項目	主な意見と回答
<p>(1) 平成25年繁殖期(1月～6月)の調査結果</p> <p>(2) 調査地Lの保全対策(調査地Lの施工時の配慮)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございました。</li> <li>既に事前に大部分のお話を伺っていますけれども、今の御説明で何かお気づきの点とか御質問がございましたら、どうぞ。</li> <li>巣F3の3羽目の雛が死亡した件に関しては、特段外部から何かがあったということではなくて、衰弱していったという経緯でしょうか。■■■■■</li> <li>・その辺は調査会社から報告させていただきます。(事務局 早野)</li> <li>・調査を担当させていただきました埼玉県生態系保護協会と申します。3羽目の雛の死亡ですけれども、同じ巣内にいる別の雛あるいは親鳥からの攻撃、あるいはオオタカ以外の生き物からの攻撃というものは確認されておりません。前日の夕方の段階で親から給餌を受けている状況が観察されていますけれども、そのときに一番小さな雛だけが親から給餌を受けられず、上の兄弟2羽が独占するような状況が観察されております。その翌朝には、もう衰弱した状態で横たわって、あまり動かない状況が観察されたという状況になっております。(公財)埼玉県生態系保護協会 湯川)</li> <li>・ありがとうございます。■■■■■</li> <li>・最後の雛は4日遅れて生まれたのです。そういうのもあって、給餌量が足りなかったとか、いろいろな要因があって死亡したのかなという推測ですが、そのような状況です。(事務局 早野)</li> <li>・写真を見ても、躯体が二回りぐらい小さいですね。■■■■■</li> <li>・いかがでしょうか。何かございますか。——よろしいですか。ありがとうございます。■■■■■</li> <li>・そうしましたら、(2)「調査地Lの保全対策(調査地Lの施工時の配慮)」になりますか。よろしく申し上げます。■■■■■</li> <li>・「会議資料②調査地Lの保全対策(調査地Lの施工時の配慮)」の説明</li> </ul>

項目	主な意見と回答
<p>(2) 調査地Lの保全対策（調査地Lの施工時の配慮）</p>	<p>・ありがとうございます。</p> <p>ここで工事を進めるについての最終的な合意を得るということですかね。[REDACTED]</p> <p>・5月の段階で一度個別説明をさせて頂いて、皆さんにお知らせした上で、一応着手はしています。ただ、委員会で最終的に、その着手したのも含めて確認することになっていますので、それをお願いしたいということです。（事務局 早野）</p> <p>・今のようなお話です。いかがでしょうか。皆さんは事前にお話を伺って、工事を進めてもいいのではないかと御意見だったものですから、工事には入っていますが、正式にそれを認めるという段取りですが、何か御意見はございますか。[REDACTED]</p> <p>・先日現場を見せてもらいまして、こういう室内で議論しているだけではだめで、見せてもらうと実感として湧くなということで、大変よかったと思います。ありがとうございました。</p> <p>特に調査地Lを見せてもらって、すごいなと思ったのは、橋とか料金所の諸施設をばらばらにつくって行って、やがてはきちんとできる、ミリ単位の誤差もなくできるという道路技術者の技術の高さはすごいなと感心いたしました。そういった意味では、日本を支えてきた大変重要な技術なのだろうと思います。</p> <p>ただ、それは現代世代に対してそうなのであって、将来世代に対しては全然価値観が違って来るわけで、オオタカを初めとする生態系サービスをどう守るかということが最大の課題になるわけです。そういったことに対する配慮といいますか、高い塀をつくって、いろいろやってはいただいているのですけれども、本当にこれででき上がったときにオオタカが帰ってくるのだろうか、大変心配いたします。特にこの周辺の道路のあり方と、それから機能補償道路をつくることによってますます難しくなるのではないかと感じがするわけです。本来であれば、こういった敷地は国がちゃんと買い取って、きちんと守っていくという姿勢といいますか、将来世代に対してどの程度投資をするのか。道路をつくる現場を見ると、ものすごい大量の投資をしているわけで、現代世代に対してはものすごい投資をするのだけれども、将来世代に対しての投資部分という</p>

項目	主な意見と回答
<p>(2) 調査地Lの保全対策（調査地Lの施工時の配慮）</p>	<p>のは本当に少ないわけで、現在、自然資本が重要と言われている時代に、その辺の考え方の根本的なところに問題があるのかなという感じが強くいたしました。</p> <p>持続可能な社会をつくるということは日本も国際的に約束しているわけです。ですから、将来世代に対して負荷のかからないようにどうしたらいいかということ当然考えなければいけない。そんなことはもう20年も前にドイツがアウトバーンでやっていることだし、10年前からアメリカでもハイウェイでそういったことは普通にやっているわけで、将来世代の財産、自然資本をどう守るかということは当然のごとくやっているわけです。そういった現状をずっと見させてもらおうと、どうも日本のやっていることはおくられている。道路関係者の方々の頭がいま一つ古いのではないかと。今、日本全国で求められていること、それから世界が求めていることは昔の道路づくりとは違うわけですから、その辺の哲学部分がちょっと違うのではないかと感じが、現場に立ってみてつくづくします。道路が今必要だというのはわかるけれども、将来世代に対してどのくらい配慮したのか、そういうところが非常に薄いというか、弱い感じがいたしますし、この委員会の中でやっていて、しかもできてしまったD地区を見て、あの高架下に三面護岸のコンクリの遊水池ができています。あれを見るとがっかりするわけで、今さら日本はこれをつくるのと。道路のつくり方というものについて、根本的な、現代世代と将来世代の調和をどうするかというところをちゃんとしてもらわないといけないという感じがします。</p> <p>そういう中で、ここのL地区も、これができ上がったときにオオタカは帰ってこれるのかなと大変心配するわけですし、この道路の周辺部をどうするのか、それから、機能補償道路もちゃんとオオタカが住めるような道路をつくってもらわないと。単に舗装道路をつくられたら、確実にアウトです。生態系を分断するわけですから。生態系サービスを失ったらオオタカだって住めないわけです。そういったことの配慮をどうするのか、その辺を聞いてみたい感じがするのです。これができ上がったときにオオタカがちゃんと戻ってこれるかどうか。■■■■■</p>

項目	主な意見と回答
<p>(2) 調査地Lの保全対策（調査地Lの施工時の配慮）</p>	<p>・オオタカを代表とするこの地域の生き物という観点から考えると、特に小動物、オオタカは羽根を持っていますから大きく移動できますけれども、小動物については機能補償道路も含めて周りを囲ってしまう形になって、そういう意味では外側との分断構造になります。その辺は工夫の余地としてはどうですか。[REDACTED]</p> <p>・今、[REDACTED]から御指摘を受けたとおりでと思ひまして、現場でも言われたのですが、道路技術の高さを環境に生かせないものかとお話をされました。</p> <p>新しくどんどん何かをしていくのはなかなか難しい部分があるのですけれども、我々は、とりあえず事例をどんどんつくっていつて何かにつなげていければと思ひています。特に桶川ICのところにつきましては、以前からお話ししていたように、まず樹林の保全が重要だと思ひていまして、これは市長からの文書もありますけれども、保存樹林の指定の話があったと思うのですけれども、それも指定に向けて着々と動いているという話も聞いていますので、それはまた御報告させていただきたいと思ひております。</p> <p>あと、三面張りの調整池が寂しいというお話もありましたけれども、そこに関しても、何とかという感じではすけれども、このインターの中に大きな調整池ができますので、そこではちゃんと環境に配慮もしますし、高架下のミティゲーションでもでき得る範囲の対応をしていきたいと思ひています。</p> <p>柵のお話については、機能補償道路ができることによって開発なり人が入り込むのをなるべく防ぐという意味で、まず柵の設置を、[REDACTED]は今日はおられませんけれども、要望されている中で、それについては、土地所有者は11人ぐらいいるのですけれども、一応了解がとれましたので、そこはやります。ただ、動物の空間的なものを含めてという意味では配慮できていない部分があるので、場合によっては、下をあけたりとかでき得る範囲の検討はしてみたいと思ひております。（事務局 早野）</p> <p>・おっしゃられるように、柵の隙間の大きさによって、地上徘徊性の生き物の種類、ある特定の種類は行けても、それより大きい種類は行けないようなことがありますので、この辺に生息している種のことを頭に置きながら工夫していただきたいということが1つ。</p>

項目	主な意見と回答
<p>(2) 調査地Lの保全対策（調査地Lの施工時の配慮）</p>	<p>それから、今データがどのぐらいあるのかわかりませんが、例えばタヌキのようなものは人の道を使うわけですから、そこが車が頻繁に通るような場所ですと交通事故のもとになるということで、ボックスカルバートの小規模なものを設置するとか、対応すべき場合はそういう工夫がプラスアルファできると思いますけれども、その辺をお考えいただければと思います。■■■■■</p> <p>・一応できる範囲で考えていきたいと。先生にまた笑われてしまいますけれども、よろしく願いいたします。（事務局 早野）</p> <p>・ほかにはいかがですか。■■■■■</p> <p>・この間、案内していただいて、どうもありがとうございました。行ってわかったことは、今、■■■■■が言ってくれたことは全くそのとおりだと思っていますが、調査地Aに行ったときに、今まで緑のあれをつくって、買い取って、営巣地の環境を整えてきたのが、大宮国道から東日本高速道路に管理が移行されると、その後それがどのように使われるかは東日本高速道路の配慮次第だという意味のことをおっしゃいましたよね。そうすると、せっかくここでこれだけオオタカ保護のために皆さんと一生懸命頑張って、しかも大宮国道も一生懸命頑張ってやったにもかかわらず、管理が移行されてしまうと本来の問題が消えてしまうということになると、一体これはどうなるのか、あるいはどういった形で継承されていくのかということが決められていないのかというようなことを感じて、びっくりしたので、その辺のことを御回答いただきたい。■■■■■</p> <p>・緑の再生地、■■■■■のところだと思うのですが、土地の名義は、今、国土交通省が買収して、国土交通省の土地になっています。圏央道の事業そのものは、あと数年したら埼玉県内は終了しますので、土地の管理をどうするかということについては、まだ確定していませんけれども、基本的にはNEXTCOに引き継ぐというより地元自治体に管理を引き継ぐ方向で検討しています。ただ、あの中での管理をどの程度できるかみたいな話は、そこも含めてまだ検討していかなくてはいけないので、まだ時間がありますので、そこは再度調整していきたいと思います。ですので、誰かほかの人の手</p>



項目	主な意見と回答
<p>(2) 調査地Lの保全対策（調査地Lの施工時の配慮）</p>	<p>に渡ってしまうということはありませんので、自治体間でどういった対応ができるかをしっかり調整できればと思っています。（事務局 早野）</p> <p>・そうだと思うのです。そう思っていてもらいたいのですが、そのときに、あそこをなぜそのようにしたのかということが生かされないで地元で頼むということになってくると全く意味のないことになってくるので、それはどのような形をつないでいくのかということ。まだ時間もありますからということではなくて、少なくともこの会議がある間は提案なり提示なりしていただけるとありがたい。連続性を持たせる、つながりを持たせるように、自治体あるいは東日本高速と今から話し合っ、こういう形ですと将来にわたってつないでいきますということに約束するような形にしておいていただければありがたいかなと。そうすると、我々も10年間頑張った甲斐がありますので。■■■■■</p> <p>・先ほどの時間がありますからというのは、まだ開通までに時間がありますからという意味で、そういう調整を怠るという意味ではありませんので、■■■■■がおっしゃるとおり、その辺はしっかり継続できるようにやっていきたいと思います。（事務局 早野）</p> <p>・現場を見せてもらってつくづく思ったのは、オオタカのいる森を守る、また調査をするのは、本当は国土交通省の仕事ではないのです。県及び市町村です。自分の町の自然環境はどうするのかという根本的なところが日本の市町村にはないし、県にもないわけです。持続可能な社会をどうつくるかというのは、根本的に自然環境を、理想としては地域で60%残す必要があると国際的に言われているわけです。埼玉県全体を見ても、健全な生態系なんて数%しかないわけです。明らかに県づくりは間違っているし、この周辺市町村だってそれだけの自然はないわけで、オオタカがいる森がどのぐらい重要か、国づくりのベースだし、生態系サービス、将来世代にとって最も重要な財産だという考え方が非常に少ないわけです。そういう中で地元自治体にここの生態系の管理なんて絶対にできません。だから国交省がそういった地域をリードする必要があるわけで、県もだめ、市町村もだめ、国もだめと放ってしまったら、結局、</p>

項目	主な意見と回答
<p>(2) 調査地Lの保全対策（調査地Lの施工時の配慮）</p>	<p>日本の国全体がどんどん国際評価が下がっているでしょう。もっと下がってってしまうわけでしょう。ここで突っ張るのは国だと思うのです。国がそういったことを手放さないで、進んでいるのは地元のNGOとか市民団体です。ここと手を結んで、どう市町村や県を変えていくか。そこが変わったときに初めて渡すということが必要だろうと思うのです。そういう手順というかな、もう少し現実的なところを踏まえていただいて。こんな調査は市町村は何もやってないわけです。本来は市町村がやるべきですよ。自分の町の自然は自分で守るとするのは当たり前のことであって、そんなこともやっていない。そこに任せますよというのは無理なので、もう少し国が踏ん張ってほしいと思います。■■■■■</p> <p>・今後の仕組みみたいな部分も含めて、どういった方向が一番いいのか、先生がおっしゃるとおり、せつかくあのような形で残っているものがだめにならないようにしなければいけないので、そこは検討させていただきます。（事務局 早野）</p> <p>・調査地Aを見せていただくと、ようやく木本類がしっかり根を張って、これからますます大きくなっていく、つながっていくという緒についた段階ですので、恐らく維持管理のいろいろな工夫がこれから始まると思うのです。その辺で、今後の仕組みだとか、どのようなかかわりをそれぞれ役割分担でやっていくかの形をしっかりとくり上げていくということをよろしくお願ひしたいと思います。■■■■■</p> <p>・この会議の中でも、継続性というか、どうやって持続するかが大事だというのもよく学びましたので、どのようなやり方がいいのか、よく勉強させていただきたいと思います。（事務局 早野）</p> <p>・■■■■■、いかがですか。■■■■■</p> <p>・国に余分なことをお願ひしなければならない。今まで、つくるところはいろいろありましたけれども、そんなことまでお願ひしなければいけないのかと残念に思っています。■■■■■</p>

第14回 埼玉圏央道オオタカ等保護対策会議

項目	主な意見と回答
<p>(2) 調査地Lの保全対策（調査地Lの施工時の配慮）</p> <p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確認になりますけれども、工事が進められていることについては正式にお認めいただいてよろしいですね。[REDACTED]にもその辺をお伝えください。[REDACTED]</li>   <li>・はい。（事務局 早野）</li>   <li>・ほかには何か御懸念の点はございますか。          予想以上に工事が静かに進んでいるので、ちょっと怖いですね。よろしくお願ひしたいと思います。          そうしましたら、これはこれで一応確認できたということで。[REDACTED]</li>   <li>・[REDACTED]にもその旨は伝えさせていただきたいと思います。（事務局 早野）</li>   <li>・よろしくお伝えください。          それでは、その他ですか。一応、この議事に上がっている2つは確認ができたということで。          手戻りになりますけれども、Aの雛が残念ながらというところの経緯をもう一回、確認のためにお話してください。[REDACTED]</li>   <li>・細かくは調査会社からもう一度お話しさせていただきますけれども、A10に繁殖していたのですけれども、6月14日の調査時点で確認されなくて、カラスの出入りが確認されていたと。オオタカの白い羽毛の付着も確認されたのですけれども、少なくとも数日以上はオオタカの利用がされていなかったのではないかという報告を受けています。原因については今の段階ではわからないので、現場でも御指摘を受けましたけれども、当時の周辺状況等がどうあったかみたいな部分もできる限り確認した上で、また秋のときに御報告という格好にしたいと思っています。あとは調査会社から。（事務局 早野）</li>   <li>・調査結果なのですけれども、調査地Aにつきましては、現在、繁殖期の調査ということで、月に一度の調査をしております。          まず、今年度入りまして、4月4日の段階ではオオタカは順調に</li> </ul>

項目	主な意見と回答
その他	<p>生息が確認されておりまして、今回巣をつくりましたA10という巣が見つかった森での交尾等が盛んに確認されて、非常に活発な繁殖状況が確認されております。それが4月4日です。</p> <p>その次の調査は実は1ヶ月空くのですけれども、次に調査に入りましたのは5月1日。このときに、先ほどからお話が出ていますけれども、A10という巣が見つかりまして、その巣にオオタカのものと思われる大量の白い羽毛の付着が確認されております。もちろん、その時点でオオタカも確認されておりまして、A10の巣のある森の中での鳴き声や飛翔が確認されておりました。この5月1日の段階で、その白い羽毛の付着と、尾羽が巣の縁に見られたものですから、この段階で抱卵が確認されたと判断させていただいたところでございます。</p> <p>その次の調査が、また1ヶ月空くのですけれども、6月14日になります。この時点で、大量に確認されていた、巣に付着していた羽毛を一枚も確認することができませんでした。もちろん、その中にオオタカの姿を見ることはできずに、かわりにカラスが出入りしているのが確認されたという状況でございます。1ヶ月に1回という調査頻度なので、その間何があったのか、詳しいところまでは追いつけなかったのですけれども、6月14日の調査の段階で、繁殖には失敗したと判断させて頂いたところでございます。((公財) 埼玉県生態系保護協会 湯川)</p> <p>・ありがとうございました。</p> <p>何かございますか。よろしいですか。■■■■もよろしいですか。■■■■</p> <p>・ちょっと伺いたいののですが、5月1日には尾羽が見えて、大量の羽毛が付着していて、1ヶ月後に行ったときには、その痕跡がなかったということになると、巣から親が離れるか、いわゆる放棄したというか、中断してからかなり時間がたっているということですね。■■■■</p> <p>・そうですね。((公財) 埼玉県生態系保護協会 湯川)</p>

第14回 埼玉圏央道オオタカ等保護対策会議

項目	主な意見と回答
その他	<p>・その間にカラスの出入りがたくさんあったとか。周辺の問題ですけれども。■■■■■</p> <p>・5月1日～6月14日の間のカラスの動きは調査していないのでわからないのですけれども、例えば6月14日にカラスが周辺にたくさんいたかという、必ずしもそういう状況ではないです。 ((公財) 埼玉県生態系保護協会 湯川)</p> <p>・以前からその周辺はどうなのですか。■■■■■</p> <p>・それほどカラスが多いという印象は持っていません。((公財) 埼玉県生態系保護協会 湯川)</p> <p>・では、原因はカラスに押しつけるわけにはいかないですか。■■■■■</p> <p>・可能性の1つとして考えてはおります。((公財) 埼玉県生態系保護協会 湯川)</p> <p>・いずれにしても、5月1日から間もなくこれが発生したと考えていいようですね。■■■■■</p> <p>・そうですね。((公財) 埼玉県生態系保護協会 湯川)</p> <p>・わかりました。■■■■■</p> <p>・Aのことだけではなくて、全体的に何かございますか。きょうは時間があり余りそうですが。何か補足的なことはございますか。■■■■■</p> <p>・個々のものはそういうことなのですが、全体としてまだこれから道路が伸びていくわけじゃないですか。そういうものに対して、今までせっかく議論をしているいろいろなアイデアが出ているわけで、それをその先にずっと生かしてほしいのです。ここだけの話をしているわけではないので。日本全国、先進的な事例もあるわけで、そう</p>

項目	主な意見と回答
その他	<p>いったものを生かしながら、基本的には、もう時代が持続可能な社会をどうつくるかということで方向性が決まっているわけだから、そういう中でこれからの高速道路のあり方をどうするのかという根本的なところが問われているわけで、そういうことに対してこういった議論を生かしてほしいのです。またそこで同じことを一から検討するなんていうことではしようがない話で。だから、その辺の根本的な考え方をこれからどうするのかというのを聞きたいです。それがないと、何だかここだけで終わってしまって、次に行って、次の委員に私たちが入らないとまただめかなと、そんなことでは困る話じゃないですか。結果として日本がよくなればいいのですけれども、逆に自然環境はどんどんなくなっているわけで、最近では道路のつくり方の評価が韓国より低いのです。あのソウルのど真ん中でもってものすごい自然再生事業を道路関係がやっているのです。その現場を私は見てきて、これからはもう少し違う、将来性を見据えた道路環境対策をちゃんとやりましたよということを国民に見せる必要がある。その辺の意気込みというか、方向性を話してもらえませんか。■■■■■</p> <p>・我々もそろそろ年ですので、ずっと見守り続けるわけにいかないですよ。そうすると、国交省の方が主体的に、道路をつくと同時に、緑の質を高めていくということが仕事として組み込まれるようにならないと、我々の頑張りは次の代に伝えたことにならないかなという■■■■■のお話だったと思うのですけれども、いかがでしょうか。■■■■■</p> <p>・大局的な部分のお話もあって、この場で議論し切れない部分もありますが、現場の事務所ができることは、まさしく先ほど言ったように、こういった事例を公表して、いい事例だということでみんなに見習ってもらえるようにPRしていくことだと思うので、まずそういうものはやっていきたいと思っています。大きな部分というのは、法の部分とか、河川法には環境の部分を取り込まれていますけれども、道路法にはそういう部分が今はないので、そういったもっと大きなところが変わっていかないと実際に現場でやっている我々は動きにくいというのがあるので、その辺は■■■■■にもっと頑張ってください、我々が動きやすいような状況になればいいか</p>

項目	主な意見と回答
その他	<p>などは思っております。(事務局 早野)</p> <p>・オオタカを今後どのように取り扱っていくかというのは今議論がされている最中ですが、オオタカがふえたのではないと言われるバックには、今までのいろいろな試行錯誤がある意味うまくいっているという背景もありますよね。ですから、この流れを、もうオオタカは安心だからといってすばっととめてしまうといえますか、そういうのは極めて後ろ向きの反応だと思うのです。ですから、言われなくてもやっていただくように体制を組みかえていただきたいなと個人的には思います。</p> <p>ほかにはいかがでしょうか。——よろしいですか。</p> <p>そうしましたら、きょう出されている議事の2つはこれで完了したということにいたしますので、その他で何かございましたら、よろしく申し上げます。■■■■■</p> <p>・ありがとうございました。</p> <p>1点、事務局から報告、確認ということで、調査地DとEです。工事監視モニタリングについて、5月末までに顕著な繁殖兆候が確認されていなかったということで、6月末で終了と説明させていただきました。委員の皆様から、現時点で営巣が確認されていないのであれば工事監視モニタリングは終了してもいいのではないかという了解をいただきましたので、DとEにつきましては6月末をもって工事監視モニタリングは終了したいと思っておりますので、よろしく願いいたします。(事務局 宮下)</p> <p>・今、調査課長からお話しした内容も■■■■■には伝えた上でと考えております。(事務局 早野)</p> <p>・よろしく申し上げます。これでよろしいでしょうか。お返しいたします。■■■■■</p> <p>・きょう御審議いただいた内容につきましては、5月から御説明した内容とか現地を見ていただいた内容を踏まえて、ある意味、この会に至るまでにある程度御了解いただいた内容を説明しているので、短時間で会議ができました。今後、今年の調査結果等を踏ま</p>

第14回 埼玉圏央道オオタカ等保護対策会議

項目	主な意見と回答
その他	<p>えて、また秋には次の会議を開きたいと思っていますので、よろしく願います。(事務局 早野)</p> <p>・ありがとうございました。</p> <p>今後、調査地Lにつきましては、保全対策を講じた上で工事を進めたいと思います。調査地Fにつきましても、CCDカメラモニタリングを継続して繁殖の確認をしていきたいと考えております。</p> <p>それから、次回のお話になるわけですが、25年度の繁殖期の終了後ということで、9月下旬から10月上旬あたりで予定したいと思っています。具体的な時期につきましては改めて委員の皆様と調整させていただきたいと思っていますので、協力をよろしくお願いいたします。</p> <p>それと、本日の会議資料につきまして、大分厚く、重いものになっております。持ち帰りは大変という方がいらっしゃれば、机の上にそのまま置いておいて頂ければ、後日郵送という形で皆様に送付させていただきますと思っています。(事務局 宮下)</p>
閉 会	<p>・長時間にわたりまして御議論をありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして第14回埼玉圏央道オオタカ等保護対策会議を終了させていただきます。ありがとうございました。(事務局 宮下)</p>